

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	大阪成蹊大学
設置者名	学校法人 大阪成蹊学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
経営学部	経営学科	夜・通信	17	30	50	97	13	
	スポーツマネジメント学科	夜・通信			42	89	13	
	国際観光ビジネス学科	夜・通信			62	109	13	
芸術学部	造形芸術学科	夜・通信		82	46	145	13	
教育学部	教育学科	夜・通信		0	269	286	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

公表方法：大阪成蹊大学ホームページ「シラバス」内で公表。
https://univ.osaka-seikei.jp/department/syllabus/pdf/syllabus_10.pdf

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	大阪成蹊大学
設置者名	学校法人 大阪成蹊学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

大阪成蹊学園 HP 内の「情報公開」「寄付行為等」「役員関連」で公表。
<https://osaka-seikei.jp/disclosure/kifu/index.php>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	信用保証機関 代表取締役社長	2018.11.1～ 2022.10.31	就職・募集
常勤	保険代理店・不動産取 扱業 取締役社長	2021.6.18～ 2025.6.17	経営企画 広報・人事
常勤	銀行 常務監査役	2020.6.30～ 2024.6.29	組織運営
常勤	銀行 常務執行役員	2021.4.24～ 2025.4.23	経営計画・IR
非常勤	弁護士	2018.4.1～ 2022.3.31	法務
非常勤	税理士	2018.4.1～ 2022.3.31	財務
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	大阪成蹊大学
設置者名	学校法人 大阪成蹊学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。

(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)

中央教育審議会の答申や政策的な提言を含めて、本学のディプロマ・ポリシーとの関連性も踏まえつつ、学生にとって分かりやすいシラバスの作成に努め、授業の質や教育成果について、常に検証を行っている。

平成 29(2017)年度には、シラバス入力の新フォーマットの構築、シラバス作成の手引きの策定、シラバスチェック体制の構築、シラバス作成及びチェックにあたっての研修会の開催等を行った。平成 30(2018)年度には、シラバスの記載項目に実務経験の有無の記載欄の新設や、授業の事前・事後の学修課題の記載の具体化等を図った。シラバスにおける記載事項は、全学的な教学改革の取組を反映したものであり、例えば、各授業の養うべき力と到達目標におけるディプロマ・ポリシーに掲げる各要素との対応の明記、アクティブラーニングを促す方法の明記、成績評価の方法・割合・基準等の明記、学外連携学修の有無と連携先の明記、授業外の学修課題や目安となる学修時間等の明記などである。

令和元(2019)年度には、シラバス作成にあたっての留意点や作成例を充実させ、定期試験の扱いに関する注意を新たに徹底した。令和2(2020)年度には、90分授業から100分授業へと移行し、すべてのシラバスに対し、授業計画を改めて見直した。また、チェック機能を更に強化するため、シラバス作成の手引き最終ページにセルフチェックリストを追加した。

学生と担当教員の間で、当該科目における学修イメージを事前に共有することの出来る分かりやすいシラバスを作成できている。記載項目の充実や各教員の記載方法の工夫を図るとともに、科目区分ごとのシラバスチェック体制を充実して、複数の教員の視点を踏まえたシラバス作成によって、シラバスの質の向上を図っている。

◆シラバスの作成・公表時期

- (1) 作成時期 12月～2月
- (2) 公表時期 3月下旬

◆シラバスの作成過程

- (1) 授業担当教員はブラウザ上から学生ポータルシステムに教員アカウントでログインし、シラバス入力を行う。(～1月)
- (2) シラバスを印刷し、1次チェック担当教員へ配付。チェックリストに基づき1次チェックを実施する。(2月～)
- (3) 授業担当教員は1次チェック結果を受け取り、修正を行う。(～2月中旬)
- (4) 2次チェック担当教員がブラウザ上で2次チェックを実施する。(～2月下旬)

<シラバス記載項目>

①授業概要 ②実務経験のある教員による授業科目 ③養うべき力と到達目標 ④学外連携学修 ⑤授業方法(アクティブラーニングを促す方法について) ⑥課題や取組に対する評価・振り返り ⑦成績評価(評価方法・割合・基準等) ⑧使用教科書 ⑨参考文献等 ⑩履修上の注意・備考・メッセージ ⑪オフィスアワー・授業外での質問の方法 ⑫授業計画(タイトル・授業内容・授業外学修課題・目安の時間)

授業計画書の公表方法	大阪成蹊大学ホームページ「シラバス」内で公表 https://univ.osaka-seikei.jp/department/syllabus/ 学生は、学生ポータルシステムでも閲覧可。 https://portal.osaka-seikei.ac.jp/web_gen/																											
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。																												
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>各教員は担当授業の学習到達度を査定する際には、シラバスに記載の「成績評価方法」「評価割合」「評価の基準等」に基づいて評価を行う。また、特に、レポート、作品・ポートフォリオ、プレゼンテーション、卒業論文などによる質的評価を行う科目では、適宜ルーブリックを開発・活用している。また、成績評価ガイドラインを定め、成績評価にあたっての考え方や、各評語に関する共通理解を図り、公正で客観的な成績評価に努めている。</p>																												
3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。																												
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本学では、学生の学修成果の獲得状況を客観的に数値化して比較するためにGPA制度を導入し、学生の学修状況の把握・分析、学修・履修指導への活用、成績優秀者への表彰等に活用している。学生に対しては、履修オリエンテーションにおいて、GPA制度の目的やGPAの算出方法、活用方法等を周知している。また、期末毎に配布される成績表に単位取得数とともにGPAを表記して、フィードバックしている。</p> <p>成績の分布状況の把握にあたっては、半期ごとに、全授業の成績評価分布のデータを分析して、成績評価の現状と課題を検証している。検証結果をもとに、成績評価に著しい偏りの見られる教員への改善指導や、ルーブリックの活用の推進を図り、公正で客観的な成績評価の実施に努めている。</p>																												
<p>成績の評語、点数、及びグレードポイント（GP）は、次表のとおり定めている。</p> <table border="1" data-bbox="304 1350 1370 1610"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>成績の評語</th> <th>点数</th> <th>GP</th> <th>評価基準</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">合格</td> <td>秀</td> <td>100点～90点</td> <td>4</td> <td>基準を大きく超えて優秀である</td> </tr> <tr> <td>優</td> <td>89点～80点</td> <td>3</td> <td>基準を超えて優秀である</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>79点～70点</td> <td>2</td> <td>望ましい基準に達している</td> </tr> <tr> <td>可</td> <td>69点～60点</td> <td>1</td> <td>単位を認める最低限の基準には達している</td> </tr> <tr> <td>不合格</td> <td>不可</td> <td>59点以下</td> <td>0</td> <td>基準を大きく下回る</td> </tr> </tbody> </table>		区分	成績の評語	点数	GP	評価基準	合格	秀	100点～90点	4	基準を大きく超えて優秀である	優	89点～80点	3	基準を超えて優秀である	良	79点～70点	2	望ましい基準に達している	可	69点～60点	1	単位を認める最低限の基準には達している	不合格	不可	59点以下	0	基準を大きく下回る
区分	成績の評語	点数	GP	評価基準																								
合格	秀	100点～90点	4	基準を大きく超えて優秀である																								
	優	89点～80点	3	基準を超えて優秀である																								
	良	79点～70点	2	望ましい基準に達している																								
	可	69点～60点	1	単位を認める最低限の基準には達している																								
不合格	不可	59点以下	0	基準を大きく下回る																								
<p>GPAは、次の式により計算し、小数点以下第二位の値を四捨五入する。</p> $GPA = \frac{\text{(当該科目の単位数} \times \text{該当学期の履修科目のGP)} \text{の総和}}{\text{当該学期の履修科目の総単位数}}$																												
客観的な指標の算出方法の公表方法	大阪成蹊大学ホームページ内でGPA制度に関する規程を記載した履修ガイドを公表 https://univ.osaka-seikei.jp/students/pdf/guide_univ.pdf 【履修ガイド】GPA制度に関する規程を履修ガイドに掲載し、学生に配付し公表している。																											

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

大学全体の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を下記のとおり定め、本学の建学の精神「桃李不言下自成蹊」を体現する「人間力」のある人材として、卒業の認定に際して「何ができるようになっているか」を明確に示している。また、大学全体の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる育成する人材像と構成要件を揃えながら、学部・学科別の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を策定している。

各授業のシラバスで示す「養うべき力と到達目標」は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる各要素と対応するよう設定し、到達目標の達成度を、同じくシラバスに明示する成績評価方法、割合、基準等に基づいて、適切に評価して単位を認定している。卒業要件となる単位数は、学則第45条において、科目区分ごとに定め、合計124単位以上の取得を要件としている。4年生後期の成績評価終了後、速やかに卒業判定教授会を開催し、各学生の単位の修得状況が卒業要件を満たしているかにつき確認し、卒業判定を行っている。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

概要

本学では卒業要件単位の取得を通して、以下に示す「確かな専門性」、「社会で実践する力」、「協働できる素養」、「忠恕の心」を身につけた学生に対し、社会で活躍できる「人間力」を備えたものとみなし、学士の学位を授与します。学士には、幅広い分野・領域で高い専門性を発揮するための確かな知識や技能、実践力が求められます。また、知識や技能だけでなく、社会人として活躍するための、自ら課題を発見し解決していこうとする姿勢や、様々な人と協力して物事に取り組むことのできる素養を必要とします。

確かな専門性

1. 確かな専門性を磨くための幅広い教養やスキルを身につけている。
2. 専門に関わる確かな知識・技能、職業理解を身につけている。
3. 知識・技能を実践の中で応用することができる。

社会で実践する力

4. 論理的に考え、課題を明らかにすることができる。（課題発見）
5. 豊かな発想力によって、未知の課題にも創造的に取り組むことができる。（企画・立案）
6. 主体性を持ち、積極的に行動することができる。（行動・実践）
7. 困難な課題にも挑み、最後までやりとげることができる。（完遂）

協働できる素養

8. 他者の意見をよく聴き、自己の意図を正確に伝えることができる。
9. 集団やチームの中で固有の役割を果たすことができる。

忠恕の心

10. 常に誠をつくし、ひとの立場に立って考え行動することができる。

卒業の認定に関する 方針の公表方法	大阪成蹊大学ホームページ上の「教育研究上の目的と3つのポリシー」及び各「学部紹介」内で公表。併せて学生に配布している「履修ガイド」にも各学部の「卒業の認定に関する方針」を掲載。 大学全体： https://univ.osaka-seikei.jp/introduction/policy/ 経営学部： https://univ.osaka-seikei.jp/department/management/policy/ 芸術学部： https://univ.osaka-seikei.jp/department/art/policy/ 教育学部： https://univ.osaka-seikei.jp/department/education/policy/
----------------------	--

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	大阪成蹊大学
設置者名	学校法人 大阪成蹊学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	学園ホームページ上の「情報公開」内で公表。 https://osaka-seikei.jp/disclosure/
収支計算書又は損益計算書	学園ホームページ上の「情報公開」内で公表。 https://osaka-seikei.jp/disclosure/
財産目録	学園ホームページ上の「情報公開」内で公表。 https://osaka-seikei.jp/disclosure/
事業報告書	学園ホームページ上の「情報公開」内で公表。 https://osaka-seikei.jp/disclosure/
監事による監査報告(書)	学園ホームページ上の「情報公開」内で公表。 https://osaka-seikei.jp/disclosure/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:令和3年度事業計画書 対象年度:令和3年度)
公表方法:学園ホームページ上の「情報公開」内で公表。 https://osaka-seikei.jp/disclosure/
中長期計画(名称:中長期経営計画(2020-2029) 対象年度:令和2年度~令和11年度)
公表方法:学園ホームページ上の「情報公開」内で公表。 https://osaka-seikei.jp/disclosure/

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法:大阪成蹊大学ホームページ上の「情報公開」内で公表。 https://univ.osaka-seikei.jp/disclosure/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:大阪成蹊大学ホームページ上の「情報公開」内で公表。 https://univ.osaka-seikei.jp/disclosure/

(3) 学校教育法施行規則第172条の2第1項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 経営学部 経営学科
教育研究上の目的(公表方法:履修ガイド等の刊行物の配布や大阪成蹊大学ホームページ等) https://univ.osaka-seikei.jp/department/management/policy/

(概要)

大阪成蹊学園の建学の精神「桃李不言下自成蹊」および行動指針「忠恕」に基づき、本学科は、現代の社会・経済・経営・情報環境の下で求められる「ビジネス（業務の設計と運用）とマネジメント（経営資源の管理と活用）及び情報処理に関する基礎的能力とスキル」及び「コミュニケーションに関する基礎的能力とスキル」を修得し、企業・組織の中で自分自身の役割を認識し、自分なりの考え方をもち、他人と協働しながら、現代の多様な経営課題の解決に貢献できる「人間力」を備えた人材を育成します。

卒業の認定に関する方針（公表方法：履修ガイド等の刊行物の配布や大阪成蹊大学ホームページ等）

<https://univ.osaka-seikei.jp/department/management/policy/>

(概要)

経営学部経営学科では、卒業要件単位の取得を通して、以下に示す「確かな専門性」、「社会で実践する力」、「協働できる素養」、「忠恕の心」を身につけた学生に対し、社会で活躍できる「人間力」を備えたものとみなし、学士の学位を授与します。特に学士には、幅広い分野・領域で高い専門性を発揮するための確かな知識や技能、実践力が求められます。また、知識や技能だけでなく、社会人として活躍するための、自ら課題を発見し、解決していこうとする姿勢や、様々な人と協力して物事に取り組むことのできる素養を必要とします。

確かな専門性

1. 現代社会におけるマネジメント（経営資源の管理と活用）及びビジネス（業務の設計と運用）の仕組みを理解できる。
2. 組織・企業活動の職務を遂行するために必要な専門知識、技能（企画・運営、会計、流通、商品開発、管理）を身につけ、職務に係る問題解決のために専門知識、技能を応用できる。
 - (1) 企画・運営：事業体の経営に対して実証的な裏付けのある見解を持つことができる。
 - (2) 会計：資金の流れを把握し、経済活動の結果を貨幣を単位として記録、計算、管理することができる。
 - (3) 流通：流通過程を設計し、問題解決に資することができる。
 - (4) 商品開発：顧客のニーズを把握し、満足度の高い商品を提案できる。
 - (5) 管理：事業体の環境適応性を理解し、適切に組織化できる。
3. サービス産業における事業体の環境適応性を理解し、適切に組織化し、システムを有効に活用し、顧客に対するサービスの品質を維持・向上させることができる。

社会で実践する力

4. 課題発見にあたり、必要な情報を収集・分析・活用することができる。
5. 課題解決に向けて方策を企画・立案することができる。
6. 課題解決に主体的に取り組む意欲を持ち続け、積極的にかかわることができる。
7. 諦めずに、最後までやり遂げることができる。

協働できる素養

8. 自己の意見を正確に伝える、他者の意見を聴くなどのコミュニケーションができる。
9. 社会や企業・組織の中で、協調、協働でき、役割を果たすことができる。

忠恕の心

10. 常に誠をつくし、ひとの立場に立って考え行動することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：履修ガイド等の刊行物の配布や大阪成蹊大学ホームページ等）

<https://univ.osaka-seikei.jp/department/management/policy/>

(概要)

教育目的に掲げる「人間力」を備えた人材を育成するために、体系的な教育課程を編成しています。また、教育効果を最大限に高められるように、授業の形式を問わずアクティブラーニングを推進しています。学修成果と評価については、授業科目ごとにシラバスにおいて養うべき力、到達目標、成績評価の観点と方法、尺度を明記し、客観的に学修成果を測り、評価できるようにしています。

教育課程の編成

本学部の教育課程は「大学共通科目」、「専門科目」の2つの科目群で構成されています。「大学共通科目」には、「初年次科目」、「外国語科目」、「教養科目」、「キャリア科目」があります。「初年次科目」、「外国語科目」は、「学びの基礎」、「文章と表現」、「情報リテラシー」、「外国語」、「留学生科目」から構成され、大学での学びの基礎や社会人としての基本的な能力を身につけます。「教養科目」は、「人間と智」、「国際社会と日本」、「科学と環境」、「地域と文化」、「健康とスポーツ」などの科目群で構成され、人間性や自己を取り巻く環境に対する深い関心と理解力を身につけます。「キャリア科目」では、社会の仕組みや組織についての理解を深め、職業選択の能力や高い職業意識、社会人としての職業上の適性・能力を身につけます。

「学部専門科目」は、「学部共通専門科目」と「学科別専門科目」の2つの科目群で構成されています。「学部共通専門科目」は、大学生に求められる基本的な知識、技能、態度を身につける「学部共通演習科目」（2018年度入学生のみ）、経営学の基礎・基幹を身につける「学部基礎科目」「学部基幹科目」、専門の基礎を固めたり、視野を広げたりするための「学部展開科目」から構成されています。

「学科別専門科目」では、まず、経営、食ビジネス、公共政策の各コースに分かれ、各分野のビジネスの現場に必要な知識、技能を身につけた上で、複雑な経営の問題を理解し、改革する力を系統的に身につけられるように、「専門基礎科目」「専門基幹科目」「専門展開科目」を配置しています。また、「専門演習科目」では、卒業論文の完成に至るまでの3年間、少人数のゼミ形式で、指導教員の研究指導の下で、専門性を一層深めます。4年間の終わりには、学修の集大成として「卒業論文作成、発表」を行い、4年間の学びを振り返りながら、専門性を深めることができます。

そのほか、様々な資格取得や検定合格をめざす教育プログラムを設定することで、興味や関心、進路に応じて学生の成長をサポートできるようにしています。

教育方法の特色

本学の授業は「講義」、「演習」、「実習」から構成されており、すべての授業において「アクティブラーニング」を進めています。「講義」では、教員の一方的な授業ではなく、教員と学生、学生同士の双方向のやり取りを重視した授業を展開しています。「演習」「実習」では、グループやペアで協力しながら課題に取り組む授業や、学外に出て、社会の人々との関わりの中で学びを深めていく授業、自治体、企業、団体などと連携して、実際の社会で起きている様々な課題の解決に取り組む授業などを展開しています。また、学修の成果を振り返りながら、成長を実感したり、課題を明らかにしたりできる授業も展開しています。いずれの授業においても、一人ひとりの学修状況を丁寧に把握しながら、きめ細かな指導を行っています。

学修成果と評価

学修成果の評価は、本学の「人間力」教育の目的に沿って、「人間力」を構成する個別の能力や技能を身につけることができたかを測ることで行います。具体的には、授業科目ごとにシラバスにて養うべき力、到達目標、成績評価の観点と方法、尺度を明記し、客観的に学修成果を測り、評価できるようにしています。また、学生のジェネリックスキルの測定にあたっては外部試験を活用して客観的に把握できるようにしています。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：履修ガイド等の刊行物の配布や大阪成蹊大学ホームページ等）

<https://univ.osaka-seikei.jp/department/management/policy/>

（概要）

教育目的

現代の社会・経済・経営・情報環境の下で求められる「ビジネス（業務の設計、運用）とマネジメント（経営資源の管理と活用）及び情報処理に関する基礎的能力とスキル」及び「コミュニケーションに関する基礎的能力とスキル」を身につけ、現代の多様な経営課題の解決に貢献できる「人間力」を備えた人材を育成することを教育目的としています。

入学者に求めるもの

本学科では、入学後の教育を踏まえ、以下のような人の入学を求めています。

1. 関心・意欲

- (1) 大阪成蹊大学の建学の精神とそれに基づく教育目的を理解し、「人間力」を備えた人に成長しようという意欲を持っている。
- (2) 将来、産業界で活躍し、産業の発展に貢献したいという意欲を持っている。

2. 知識・技能

- (3) 高等学校で履修する教科について、内容を理解し、基本的な知識を身につけている。
- (4) 現代の社会に関する基本的な知識を身につけている。

3. 思考・判断・表現

- (5) 他者の意図を適切に理解し、自分の考えをわかりやすく表現することができる。
- (6) 現代の社会で起きている事象について論理的に考えることができる。

4. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

- (7) 多様な人々とも協働しながら、主体的に学びを深めていこうという態度を身につけている。

学部等名 経営学部 スポーツマネジメント学科

教育研究上の目的（公表方法：履修ガイド等の刊行物の配布や大阪成蹊大学ホームページ等）

<https://univ.osaka-seikei.jp/department/management/policy/>

概要

大阪成蹊学園の建学の精神「桃李不言下自成蹊」および行動指針「忠恕」に基づき、本学科は、現代の社会・経済・経営・情報環境の下で求められる「スポーツ産業に係るビジネス（業務の設計と運用）とマネジメント（経営資源の管理と活用）に関する基礎的能力とスキル」及び「コミュニケーションに関する基礎的能力とスキル」を修得し、スポーツ産業における現代の多様な経営課題の解決に貢献できる「人間力」を備えた人材を育成します。

卒業の認定に関する方針（公表方法：履修ガイド等の刊行物の配布や大阪成蹊大学ホームページ等）

<https://univ.osaka-seikei.jp/department/management/policy/>

概要

経営学部スポーツマネジメント学科では、卒業要件単位の取得を通して、以下に示す「確かな専門性」、「社会で実践する力」、「協働できる素養」、「忠恕の心」を身につけた学生に対し、社会で活躍できる「人間力」を備えたものとみなし、学士の学位を授与します。特に学士には、幅広い分野・領域で高い専門性を発揮するための確かな知識や技能、実践力が求められます。また、知識や技能だけでなく、社会人として活躍するための、自ら課題を発見し、解決していこうとする姿勢や、様々な人と協力して物事に取り組むことのできる素養を必要とします。

確かな専門性

1. スポーツ産業におけるマネジメント（経営資源の管理と活用）およびビジネス（業務の設計と運用）の仕組みを理解できる。
2. スポーツ産業における組織・企業活動の職務を遂行するために必要な専門知識、技能（企画・運営、会計、流通、商品企画開発）を身につけ、職務に係る問題解決のために専門知識、技能を応用できる。
 - (1) 企画・運営：事業体の経営に対して実証的な裏付けのある見解を持つことができる。
 - (2) 会計：資金の流れを把握し、経済活動の結果を貨幣を単位として記録、計算、管理することができる。
 - (3) 流通：流通過程を設計し、問題解決に資することができる。
 - (4) 商品企画開発：顧客のニーズを把握し、満足度の高い商品を提案できる。
 - (5) 社会貢献：社会の潮流を見極め貢献できる実践力を身につける。
3. スポーツ産業における事業体の環境適応性を理解し、適切に組織化し、システムを有効に活用し、顧客に対するサービスの品質を維持・向上させることができる。

社会で実践する力

4. 課題発見にあたり、必要な情報を収集・分析・活用する。
5. 課題解決に向けて方策を企画・立案することができる。
6. 課題解決に主体的に取り組む意欲を持ち続け、積極的にかかわることができる。
7. 諦めずに、最後までやり遂げることができる。

協働できる素養

8. 自己の意見を正確に伝える、他者の意見を聴くなどのコミュニケーションができる。
9. 社会や企業・組織の中で、協調、協働でき、役割を果たすことができる。

忠恕の心

10. 常に誠をつくし、ひとの立場に立って考え行動することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：履修ガイド等の刊行物の配布や大阪成蹊大学ホームページ等）

<https://univ.osaka-seikei.jp/department/management/policy/>

概要

教育目的に掲げる「人間力」を備えた人材を育成するために、体系的な教育課程を編成しています。また、教育効果を最大限に高められるように、授業の形式を問わずアクティブラーニングを推進しています。学修成果と評価については、授業科目ごとにシラバスにおいて養うべき力、到達目標、成績評価の観点と方法、尺度を明記し、客観的に学修成果を測り、評価できるようにしています。

教育課程の編成

本学部の教育課程は「大学共通科目」、「専門科目」の2つの科目群で構成されています。

「大学共通科目」には、「初年次科目」、「外国語科目」、「教養科目」、「キャリア科目」があります。「初年次科目」、「外国語科目」は、「学びの基礎」、「文章と表現」、「情報リテラシー」、「外国語」、「留学生科目」から構成され、大学での学びの基礎や社会人としての基本的な能力を身につけます。「教養科目」は、「人間と智」、「国際社会と日本」、「科学と環境」、「地域と文化」、「健康とスポーツ」などの科目群で構成され、人間性や自己を取り巻く環境に対する深い関心と理解力を身につけます。「キャリア科目」では、社会の仕組みや組織についての理解を深め、職業選択の能力や高い職業意識、社会人としての職業上の適性・能力を身につけます。

「学部専門科目」は、「学部共通専門科目」と「学科別専門科目」の2つの科目群で構成されています。「学部共通専門科目」は、大学生に求められる基本的な知識、技能、態

度を身につける「学部共通演習科目」、経営学の基礎・基幹を身につける「学部基礎科目」「学部基幹科目」、専門の基礎を固めたり、視野を広げたりするための「学部展開科目」から構成されています。

「学科別専門科目」では、スポーツビジネスの現場に必要な知識、技能を身につけた上で、複雑な経営の問題を理解し、改革する力を系統的に身につけられるように、「専門基礎科目」「専門基幹科目」「専門展開科目」を配置しています。また、「専門演習科目」では、卒業論文の完成に至るまでの3年間、少人数のゼミ形式で、指導教員の研究指導の下で、専門性を一層深めます。4年間の終わりには、学修の集大成として「卒業論文作成、発表」を行い、4年間の学びを振り返りながら、専門性を深めることができます。

そのほか、様々な資格取得や検定合格をめざす教育プログラムを設定することで、興味や関心、進路に応じて学生の成長をサポートできるようにしています。

教育方法の特色

本学の授業は「講義」、「演習」、「実習」から構成されており、すべての授業において「アクティブラーニング」を進めています。「講義」では、教員の一方的な授業ではなく、教員と学生、学生同士の双方向のやり取りを重視した授業を展開しています。「演習」「実習」では、グループやペアで協力しながら課題に取り組む授業や、学外に出て、社会の人々との関わりの中で学びを深めていく授業、自治体、企業、団体などと連携して、実際の社会で起きている様々な課題の解決に取り組む授業などを展開しています。また、学修の成果を振り返りながら、成長を実感したり、課題を明らかにしたりできる授業も展開しています。いずれの授業においても、一人ひとりの学修状況を丁寧に把握しながら、きめ細かな指導を行っています。

学修成果と評価

学修成果の評価は、本学の「人間力」教育の目的に沿って、「人間力」を構成する個別の能力や技能を身につけることができたかを測ることで行います。具体的には、授業科目ごとにシラバスにて養うべき力、到達目標、成績評価の観点と方法、尺度を明記し、客観的に学修成果を測り、評価できるようにしています。また、学生のジェネリックスキルの測定にあたっては外部試験を活用して客観的に把握できるようにしています。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：履修ガイド等の刊行物の配布や大阪成蹊大学ホームページ等）

<https://univ.osaka-seikei.jp/department/management/policy/>

概要

現代の社会・経済・経営・情報環境の下で求められる「スポーツ産業に係るビジネス（業務の設計、運用）とマネジメント（経営資源の管理と活用）に関する基礎的能力とスキル」及び「コミュニケーションに関する基礎的能力とスキル」を身につけ、スポーツ産業における現代の多様な経営課題の解決に貢献できる「人間力」を備えた人材を育成することを教育目的としています。

入学者に求めるもの

本学科では、入学後の教育を踏まえ、以下のような人の入学を求めています。

1. 関心・意欲

- (1) 大阪成蹊大学の建学の精神とそれに基づく教育目的を理解し、「人間力」を備えた人に成長しようという意欲を持っている。
- (2) 将来、スポーツ産業界で活躍し、スポーツ産業の発展に貢献したいという意欲を持っている。

2. 知識・技能

- (3) 高等学校で履修する教科について、内容を理解し、基本的な知識を身につけている。

- (4) 現代の社会に関する基本的な知識を身につけている。
3. 思考・判断・表現
- (5) 他者の意図を適切に理解し、自分の考えをわかりやすく表現することができる。
- (6) スポーツ産業を取り巻く様々な事象について論理的に考えることができる。
4. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度
- (7) 多様な人々とも協働しながら、主体的に学びを深めていこうという態度を身につけている。

学部等名 経営学部 国際観光ビジネス学科

教育研究上の目的（公表方法：履修ガイド等の刊行物の配布や大阪成蹊大学ホームページ等）

<https://univ.osaka-seikei.jp/department/management/policy/>

概要

大阪成蹊学園の建学の精神「桃李不言下自成蹊」および行動指針「忠恕」に基づき、本学科は、現代の社会・経済・経営・情報環境の下で求められる「グローバル化が進む産業及び観光関連産業に係るビジネス（業務の設計と運用）とマネジメント（経営資源の管理と活用）に関する基礎的能力とスキル」及び「国際コミュニケーションに関する基礎的能力とスキル」を修得し、グローバル化が進む産業及び観光関連産業における現代の多様な経営課題の解決に貢献できる「人間力」を備えた人材を育成します。

卒業の認定に関する方針（公表方法：履修ガイド等の刊行物の配布や大阪成蹊大学ホームページ等）

<https://univ.osaka-seikei.jp/department/management/policy/>

概要

国際観光ビジネス学科では、卒業要件単位の修得を通して、以下に示す「確かな専門性」、「社会で実践する力」、「協働できる素養」、「忠恕の心」を身につけた学生に対し、社会で活躍できる「人間力」を備えたものとみなし、学士の学位を授与します。特に学士には、幅広い分野・領域で高い専門性を発揮するための確かな知識や技能、実践力が求められます。また、知識や技能だけでなく、社会人として活躍するための、自ら課題を発見し、解決していこうとする姿勢や、様々な人と協力して物事に取り組むことのできる素養を必要とします。

確かな専門性

1. グローバル産業及び観光関連産業におけるマネジメント（経営資源の管理と活用）およびビジネス（業務の設計と運用）の仕組みを理解できる。
2. グローバル産業及び観光関連産業における組織・企業活動の職務を遂行するために必要な専門知識、技能（企画・運営、会計、流通、商品開発）を理解し身につけ、職務に係る問題解決のために専門知識、技能を応用できる。
 - (1) 企画・運営：事業体の経営に対して実証的な裏付けのある見解を持つことができる。
 - (2) 会計：資金の流れを把握し、経済活動の結果を貨幣を単位として記録、計算、管理することができる。
 - (3) 流通：流通過程を設計し、問題解決に資することができる。
 - (4) 商品開発：顧客のニーズを把握し、満足度の高い商品を提案できる。
 - (5) 管理：事業体の環境適応性を理解し、適切に組織化できる。
 - (6) 国際コミュニケーション能力：英語をツールとして使いこなし、言語および文化的背景の異なる相手との関係を築き、グローバル産業や観光関連産業において協働することができる。
3. グローバル産業及び観光関連産業における事業体の環境適応性を理解し、適切に組織化し、システムを有効に活用し、顧客に対するサービスの品質を維持・向上させることができる。

社会で実践する力

4. 問題課題発見にあたり、必要な情報を収集・分析・活用する。
5. 問題課題解決に向けて方策を企画・立案することができる。
6. 課題解決に主体的に取り組む意欲を持ち続け、積極的にかかわることができる。
7. 諦めずに、最後までやり遂げることができる。

協働できる素養

8. 自己の意見を正確に伝える、他者の意見を聴くなどのコミュニケーションができる。
9. 社会や企業・組織の中で、協調、協働でき、役割を果たすことができる。

忠恕の心

10. 常に誠をつくし、ひとの立場に立って考え行動することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：履修ガイド等の刊行物の配布や大阪成蹊大学ホームページ等）

<https://univ.osaka-seikei.jp/department/management/policy/>

概要

教育目的に掲げる「人間力」を備えた人材を育成するために、系統的な教育課程を編成しています。また、教育効果を最大限に高められるように、授業の形式を問わずアクティブラーニングを推進しています。学修成果と評価については、授業科目ごとにシラバスにおいて養うべき力、到達目標、成績評価の観点と方法、尺度を明記し、客観的に学修成果を測り、評価できるようにしています。

教育課程の編成

本学部の教育課程は「大学共通科目」、「専門科目」の2つの科目群で構成されています。「大学共通科目」には、「初年次科目」、「外国語科目」、「教養科目」、「キャリア科目」があります。「初年次科目」「外国語科目」は、「学びの基礎」、「文章と表現」、「情報リテラシー」、「外国語」、「留学生科目」から構成され、大学での学びの基礎や社会人としての基本的な能力を身につけます。「教養科目」は、「人間と智」、「国際社会と日本」、「科学と環境」、「地域と文化」、「健康とスポーツ」などの科目群で構成され、人間性や自己を取り巻く環境に対する深い関心と理解力を身につけます。「キャリア科目」では、社会の仕組みや組織についての理解を深め、職業選択の能力や高い職業意識、社会人としての職業上の適性・能力を身につけます。

「学部専門科目」は、「学部共通専門科目」と「学科別専門科目」の2つの科目群で構成されています。「学部共通専門科目」は、大学生に求められる基本的な知識、技能、態度を身につける「学部共通演習科目」、経営学の基礎・基幹を身につける「学部基礎科目」「学部基幹科目」、専門の基礎を固めたり、視野を広げたりするための「学部展開科目」から構成されています。

「学科別専門科目」では、グローバルビジネスや観光ビジネスの現場で必要な知識、技能を身につけた上で、複雑な経営の問題を理解し、改革する力を系統的に身につけられるように、「専門基礎科目」「専門基幹科目」「専門展開科目」を配置しています。また、国際コミュニケーションの能力を養えるように、国際理解を深める海外研修や英語での専門講義科目、ビジネス英語を身につける科目などを配置しています。また、「専門演習科目」では、卒業論文の完成に至るまでの3年間、少人数のゼミ形式で、指導教員の研究指導の下で、専門性を一層深めます。4年間の終わりには、学修の集大成として「卒業論文作成、発表」を行い、4年間の学びを振り返りながら、専門性を深めることができます。

そのほか、様々な資格取得や検定合格をめざす教育プログラムを設定することで、興味や関心、進路に応じて学生の成長をサポートできるようにしています。

教育方法の特色

本学の授業は「講義」、「演習」、「実習」から構成されており、すべての授業において

「アクティブラーニング」を進めています。「講義」では、教員の一方的な授業ではなく、教員と学生、学生同士の双方向のやり取りを重視した授業を展開しています。「演習」「実習」では、グループやペアで協力しながら課題に取り組む授業や、学外に出て、社会の人々との関わりの中で学びを深めていく授業、自治体、企業、団体などと連携して、実際の社会で起きている様々な課題の解決に取り組む授業などを展開しています。また、学修の成果を振り返りながら、成長を実感したり、課題を明らかにしたりできる授業も展開しています。いずれの授業においても、一人ひとりの学修状況を丁寧に把握しながら、きめ細かな指導を行っています。

学修成果と評価

学修成果の評価は、本学の「人間力」教育の目的に沿って、「人間力」を構成する個別の能力や技能を身につけることができたかを測ることで行います。具体的には、授業科目ごとにシラバスにて養うべき力、到達目標、成績評価の観点と方法、尺度を明記し、客観的に学修成果を測り、評価できるようにしています。また、学生のジェネリックスキルの測定にあたっては外部試験を活用して客観的に把握できるようにしています。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：履修ガイド等の刊行物の配布や大阪成蹊大学ホームページ等）

<https://univ.osaka-seikei.jp/department/management/policy/>

概要

現代の社会・経済・経営・情報環境の下で求められる「グローバル化が進む産業及び観光関連産業に係るビジネス（業務の設計、運用）とマネジメント（経営資源の管理と活用）に関する基礎的能力とスキル」及び「国際コミュニケーションに関する基礎的能力とスキル」を身につけ、グローバル化が進む産業及び観光関連産業における現代の多様な経営課題の解決に貢献できる「人間力」を備えた人材を育成することを教育目的としています。

入学者に求めるもの

本学科では、入学後の教育を踏まえ、以下のような人の入学を求めています。

1. 関心・意欲

- (1) 大阪成蹊大学の建学の精神とそれに基づく教育目的を理解し、「人間力」を備えた人に成長しようという意欲を持っている。
- (2) 将来、実践的な英語力やグローバルな視点を武器に、グローバル産業や観光関連産業で活躍し、産業や地域の発展に貢献したいという意欲を持っている。

2. 知識・技能

- (3) 高等学校で履修する教科について、内容を理解し、基本的な知識を身につけている。
- (4) 現代の社会に関する基本的な知識や基礎的な英語力を身につけている。

3. 思考・判断・表現

- (5) 他者の意図を適切に理解し、自分の考えをわかりやすく表現することができる。
- (6) グローバル産業や観光関連産業を取り巻く様々な事象について論理的に考えることができる。

4. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

- (7) 多様な人々とも協働しながら、主体的に学びを深めていこうという態度を身につけている。

学部等名 芸術学部 造形芸術学科

教育研究上の目的（公表方法：履修ガイド等の刊行物の配布や大阪成蹊大学ホームページ等）

<https://univ.osaka-seikei.jp/department/art/policy/>

概要

大阪成蹊学園の建学の精神「桃李不言下自成蹊」および行動指針「忠恕」に基づき、本学部は、芸術教育をとおして成熟した人格形成を達成し、自己のもつ想像力や感性を磨くことで、独創的な発想や表現ができる創造力を育てます。また、芸術をとおして多様な価値観を享受する力を身につけ、社会における人間同士のコミュニケーション能力を高めることで、学園の掲げる行動指針である「忠恕」にかなう、誠実で思いやりのある人間形成をめざします。さらに、芸術による社会貢献を目標に掲げて、より実り豊かな未来を実現すべく活躍できる「人間力」を備えた人材を育成します。

卒業の認定に関する方針（公表方法：履修ガイド等の刊行物の配布や大阪成蹊大学ホームページ等）

<https://univ.osaka-seikei.jp/department/art/policy/>

概要

芸術学部では、卒業要件単位の修得を通して、以下に示す「確かな専門性」、「社会で実践する力」、「協働できる素養」、「忠恕の心」を身につけた学生に対し、社会で活躍できる「人間力」を備えたものとみなし、学士の学位を授与します。特に学士には、幅広い分野・領域で高い専門性を発揮するための確かな知識や技能、実践力が求められます。また、知識や技能だけでなく、社会人として活躍するための、自ら課題を発見し、解決していかうとする姿勢や、様々な人と協力して物事に取り組むことのできる素養を必要とします。

確かな専門性

1. 専門に関する学術的知識と基礎技能

- (1) 芸術・デザインに関する知識と理解：芸術・デザインに関する歴史的・理論的な学修に基づいた知識と美的判断力を有し、これを有効に活用できる。
- (2) 造形能力：描画力、色彩計画、素材知識、構成力、構想力、コンピュータスキルを有し、これを有効に活用できる。
 - ①表現力：独創性のある新しい造形表現ができる。
 - ②技術力：実践において専門的スキルが発揮できる。
 - ③構成力：様々な知識や技能を活かして作品にまとめられる。
 - ④プレゼンテーション能力：作品や企画を社会に対して効果的に発信できる。

2. 社会生活上必要な基礎的教養と能力

- (1) 文章表現力：論理的な構成の文章で、意図を正しく伝えることができる。
- (2) 伝える能力：聞き手の理解を確かめ、対話ができる。
- (3) 計算力：物事を定量的にとらえ、比較対照できる。
- (4) 学習力：自律、自立して学習できる。
- (5) 知識と理解：文化、社会と自然に関する一般的な知識をもち、世の中の事象を理解できる。

社会で実践する力

3. 職業生活上、状況分析、課題解決に必要な汎用的知識と技能

- (1) 情報収集力：必要な情報を判断し、収集できる。
- (2) 分析力：収集した情報を目的に沿って整理し、その関係性や本質を明らかにできる。
- (3) 課題解決力：課題を解決するための道筋を考え、実践することができる。

協働できる素養

4. 社会を構成する自立した人間として必要な社会人基礎力

- (1) 主体性：積極的に取り組もうとする態度を身につけている。
- (2) 行動力：問題解決のため、計画的に行動しようとする態度を身につけている。
- (3) 協働力：自己の役割を理解し、他者とともに協働しようとする態度と倫理観を身につけている。

(4) コミュニケーション能力：効果的に意思疎通ができ、状況に即した表現ができる。

忠恕の心

5. 「忠恕の心」をもって人や社会と接することができる

- (1) 常に誠をつくし、ひとの立場に立って考え行動することができる。
- (2) 異文化理解の精神と、国際的な視野を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：履修ガイド等の刊行物の配布や大阪成蹊大学ホームページ等）

<https://univ.osaka-seikei.jp/department/art/policy/>

概要

教育目的に掲げる「人間力」を備えた人材を育成するために、体系的な教育課程を編成しています。また、教育効果を最大限に高められるように、授業の形式を問わずアクティブラーニングを推進しています。学修成果と評価については、授業科目ごとにシラバスにおいて養うべき力、到達目標、成績評価の観点と方法、尺度を明記し、客観的に学修成果を測り、評価できるようにしています。

教育課程の編成

芸術学部造形芸術学科の教育課程は「大学共通科目」、「学部専門科目」の2つの科目群で構成されています。「大学共通科目」には「初年次科目」「外国語科目」「教養科目」「キャリア科目」があります。「初年次科目」「外国語科目」は「学びの基礎」や「文章と表現」、「情報リテラシー」、「外国語」、「留学生科目」から構成され、大学での学びの基礎や社会人としての基本的な能力を身につけます。「教養科目」は、「人間と智」、「国際社会と日本」、「科学と環境」、「地域と文化」、「健康とスポーツ」などの科目群で構成され、人間性や自己を取り巻く環境に対する深い関心と理解力を身につけます。「キャリア科目」では、自己分析と自己開発にもとづく将来設計の方法を学び、職業選択の能力や職業意識、社会人としての職業上の能力を身につけます。また「学部専門科目」は、「学部共通科目」と「コース別科目」の2つの科目群で構成されています。「学部共通科目」では、芸術の社会的な役割を認識し、専門教養を涵養するための知識、技能、態度と、大学生に求められる基本的な知識、技能、態度を身につけます。「コース別科目」では、ものづくりや情報発信の理念と技能を修得するため、基礎的な造形教育から、多様な美術・デザインの各領域の観賞、発想、表現、発表の諸能力を養います。専門的実践力を基礎から段階的・発展的に学ぶことができるように各科目を配置しています。3年生では本格的な作品制作発表の第一段階として展覧会やファッションショーに取り組み、自身の実践力を確認します。4年間の終わりには、学修の振り返りとその集大成として「卒業研究・制作」を行い、その成果を展覧会やファッションショーのかたちで広く社会に発信することで、芸術家やデザイナーとしての社会的な役割を自覚できるようにしています。

さらに、学部専門教育の実践力を社会に生かすための資格課程として「教職課程」と「博物館学芸員課程」、インテリア・プロダクトデザインコースの「二級・木造建築士課程」を配置しています。そのほか、様々な資格取得や検定合格をめざす教育プログラムを設定することで、興味や関心、進路に応じて学生の成長をサポートできるようにしています。

教育方法の特色

本学の授業は「講義」、「演習」、「実習」から構成されており、すべての授業において「アクティブラーニング」を推進しています。「講義」では、教員の一方的な授業ではなく、教員と学生、学生同士の双方向のやり取りを重視した授業を展開しており、芸術学部では、独創的な発想力や鑑賞力を獲得すべく、芸術・デザインの専門的な知識をより深く理解できる工夫をしています。

「演習」や「実習」は、本学科の学びの核であり、学生が主体的に考え行動し、場合によっては協働する授業形態をとっています。また、造形の基礎的スキルを明確な目標を持って自覚的に学ぶことができるように、デッサンや色彩構成などにグレード制を導入し、

コンピュータスキルについては、実務的な資格検定と結び付けています。

教養教育とキャリア形成科目等による社会人基礎力の涵養にくわえ、各コースの作品制作等における多様な問題解決実践とプレゼンテーションをとおして、学生は自覚的に人間力を高めることができます。

これらの学びや制作の過程と成果を4年間かけてポートフォリオにまとめていきます。このポートフォリオによって学生自身が自らの取り組みを振り返り、問題点を明らかにし、さらなる成長をめざすことができ、キャリア形成にも役立てることができます。いずれの授業においても、ポートフォリオや学生面談をとおして一人ひとりの学修状況を丁寧に把握しながら、きめ細かな指導を行っています。

学修成果と評価

学修成果の評価は、本学の「人間力」教育の目的に沿って、芸術やデザインにかかわる専門的な知識・技能を含め、「人間力」を構成する個別の能力や技能を身につけることができたかを測ることで行います。具体的には、授業科目ごとにシラバスにおいて養うべき力、到達目標、成績評価の観点と方法、尺度を明記し、客観的に学修成果を測り、評価できるようにしています。制作課題、試験、レポート、授業における発表など多様な方法によって評価を行います。

また、基礎造形力を確実に自覚的なものとするために、デッサンや色彩構成などにグレード制を導入し、コンピュータスキルにおいては実務的な資格検定と結び付けるような、検証可能な指導方法を導入しています。さらに、学修成果を向上させるために、教員の密な連携により、学生の学びの状況を共有するとともに、学生による授業評価を行い、教員が主体的に授業改善を絶えず行うこととしています。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：履修ガイド等の刊行物の配布や大阪成蹊大学ホームページ等）

<https://univ.osaka-seikei.jp/department/art/policy/>

概要

芸術教育をとおして成熟した人格形成を達成し、自己のもつ想像力や感性を磨くことで、独創的な発想や表現ができる創造力を育てます。また、芸術をとおして多様な価値観を享受する力を身につけ、社会における人間同士のコミュニケーション能力を高めることで、学園の掲げる行動指針である「忠恕」にかなう、誠実で思いやりのある人間形成をめざします。さらに、芸術による社会貢献を目標に掲げて、より実り豊かな未来を実現すべく活躍できる「人間力」を備えた人材を育成することを教育目的としています。

入学者に求めるもの

本学部では、入学後の教育を踏まえ、以下のような人の入学を求めています。

1. 関心・意欲

- (1) 大阪成蹊大学の建学の精神とそれに基づく教育目的を理解し、「人間力」を備えた人に成長しようという意欲を持っている。
- (2) 造形芸術に関心を持ち、自ら新たな表現やデザイン、美的価値を創造したいという意欲を持っている。

2. 知識・技能

- (3) 高等学校で履修する教科について、内容を理解し、基本的な知識を身につけている。
- (4) 造形、美術、デザインについて基礎的な知識や技能を身につけている。

3. 思考・判断・表現

- (5) 他者の意図を適切に理解し、自分の考えをわかりやすく表現することができる。
- (6) 柔軟な発想力や表現力を身につけ、社会で起きている事象について考えることができる。

4. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

- (7) 多様な人々とも協働しながら、主体的に学びを深めていこうという態度を身につけている。

学部等名 教育学部 教育学科
<p>教育研究上の目的（公表方法：履修ガイド等の刊行物の配布や大阪成蹊大学ホームページ等）</p> <p>https://univ.osaka-seikei.jp/department/education/policy/</p>
<p>概要</p> <p>大阪成蹊学園の建学の精神「桃李不言下自成蹊」および行動指針「忠恕」に基づき、本学部は、未来を切り拓く子どもの「生きる力」を育むことのできる幅広い教養を持ち、「人間力」を備えた教育の専門家（人間的なふれあいをとおして心のきずなを深め、子どもの思いを受け止めることのできる人、幅広い学問教養を備え、新しい時代の教育知識を身につけている人、多角的視点から現代社会の教育課題に対応できる豊かな感性・確かなセンスを身につけている人、教育実践を省察し研究することのできる人）を育成することを教育目的としています。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：履修ガイド等の刊行物の配布や大阪成蹊大学ホームページ等）</p> <p>https://univ.osaka-seikei.jp/department/education/policy/</p>
<p>概要</p> <p>教育学部では、卒業要件単位修得を通して、以下に示す「確かな専門性」、「社会で実践する力」、「協働できる素養」、「忠恕の心」を身につけた学生に対し、社会で活躍できる「人間力」を備えたものとみなし、学士の学位を授与します。特に学士には、幅広い分野・領域で高い専門性を発揮するための確かな知識や技能、実践力が求められます。また、知識や技能だけでなく、社会人として活躍するための、自ら課題を発見し、解決していこうとする姿勢や、様々な人と協力して物事に取り組むことのできる素養を必要とします。</p> <p>確かな専門性</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育に関する幅広い教養（一般教養・教職教養・新しい時代の教育知識）や技能（ベーシック・リテラシーおよび専門リテラシー）を身につけている。（＝「幅広い教養・技能」） 2. 教育実践を省察し研究することができる。 <ol style="list-style-type: none"> （1）「実践構想力」：実践を省察しながら授業・保育を設計（デザイン）できる。 （2）「実践力」：子どもの尊厳を尊重して共感的に接しながら実践できる。 （3）「実践探究力」：協働的な実践の省察を通して実践を基礎づけている枠組みを発見し、新しい実践を提案できる。（＝「実践探究力」「新しい教育課題に対応するセンス」） <p>社会で実践する力</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. 市民として、問題意識、使命感、ヴィジョンを持って、社会に貢献しようとすることができる。 4. 主体的・継続的に学びつづける生涯学習の方法と習慣を身につけている。（＝学び続ける習慣） <p>協働できる素養</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 子ども理解を中心に、多角的な視点から他者や異質なものへの理解ができる。 6. 他者と協同して、多角的な視点から現代社会の教育課題に対応できる。（＝「新しい教育課題に対応するセンス」） <p>忠恕の心</p> <ol style="list-style-type: none"> 7. 常に誠をつくし、ひとの立場に立って考え行動することができる。（＝「共感する心」）
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：履修ガイド等の刊行物の配布や大阪成蹊大学ホームページ等）</p> <p>https://univ.osaka-seikei.jp/department/education/policy/</p>

概要

教育目的に掲げる「人間力」を備えた人材を育成するために、系統的な教育課程を編成しています。また、教育効果を最大限に高められるように、授業の形式を問わず「アクティブラーニング」を実施しています。また、学修成果と評価については、授業科目ごとにシラバスにて養うべき力、到達目標、成績評価の観点と方法、尺度を明記し、客観的に学修成果を測り、評価できるようにしています。

その実施にあたり、本学部では、1年次から、教育学の理論的学修と、学校・園での体験・実習を系統的に行うと共に、理論と実践の往還を図るため、これらの取り組みに合わせて、ゼミナール形式の科目として「研究科目」を設定しています。一連の科目において、専任教員の積極的な指導の下、学校現場での体験を学生同士で省察し、各自が、教育実践に関する自分なりの課題を見つけ、研究していく力を育てていきます。

教育課程の編成

本学部の教育課程は「大学共通科目」、「専門科目」の2つの科目群で構成されています。

「大学共通科目」には、「初年次科目」「外国語科目」「教養科目」「キャリア科目」があります。「初年次科目」「外国語科目」では、「学びの基礎」や「情報リテラシー」、「外国語」、「留学生科目」から構成され、大学での学びの基礎や社会人として身につけるべき基本的な技能を身につけます。「教養科目」では、「人間と智」、「国際社会と日本」、「科学と環境」、「地域と文化」、「健康とスポーツ」から構成され、人間性や自己を取り巻く環境に対する深い関心と理解を身につけます。「キャリア科目」では、職業選択の能力や高い職業意識、社会人としての職業上の適性・能力を身につけます。

また「学部専門科目」は、「専門基礎科目」「専門選択科目」「実践研究科目」の3つの科目群で構成されています。「専門基礎科目」では、教員、保育士としての専門性の基礎を身につけます。「専門選択科目」では、初等教育専攻においては特に「体育」「音楽」「図画工作」といった表現領域の指導、中等教育専攻においては「体育・健康」「英語・グローバル」といった領域の指導とともに子どもが置かれている現代社会の今日的な課題に対する理解を深めます。

「実践研究科目」では、教職専門と教科専門、教育実習等での実践と教科や教職の理論科目とを統合して実践を省察し、教育の専門家として学び続けるための実践研究の作法を身につけます。また、学びの集大成として卒業研究を行い、実践の省察を通して焦点づけられてきた各自のテーマを探求します。

教育方法の特色

本学の授業は「講義」、「演習」、「実習」から構成されており、すべての授業において「アクティブラーニング」を進めています。「講義」では、教員の一方的な授業ではなく、教員と学生、学生同士の双方向のやり取りを重視した授業を展開しています。「演習」「実習」では、1年次の見学実習、2年次のボランティア活動と学校体験活動、3・4年次の教育・保育実習など、体験や実習が全学年にわたって体系的に配置されており、入学した学生が着実に力をつけられるよう、学外での学習経験を積み上げていきます。実習参加の際には必ず事前学習を行い、テーマをもって体験・実習に参加する準備を行います。また、実習後には一人ひとりの体験をもとに、実践を丁寧にふりかえり、理論と結びつけながら省察し、レポートを作成します。その内容について、プレゼンテーションやディスカッションで互いに交流していきます。このような仕組みによって、実習的な学習と理論的な学習とが結びつけられ、教育者としての力や視点が養われていきます。このように、本学科では、教育現場での体験・実習と大学での理論的な学習とを有機的に結びつける「実践探究型」の学修を進めています。また、担任機能を備えたゼミを各学年に配置し、学修支援、学外実習の省察指導、キャリア支援などを日常的にきめ細かく行っています。さらに、教員の専門性や科目の特性に応じ、オムニバス形式の開講や、複数教員での開講などの形式でも授業を実施し、教育効果を高めます。

いずれの授業においても、一人ひとりの学修状況を丁寧に把握しながら、きめ細かな指導を行っています。

学修成果と評価

上記の通り、学修成果の評価は、本学の「人間力」教育の目的に沿って、「人間力」を構成する個別の能力や技能を身につけることができたかを測ることで行います。具体的には、授業科目ごとにシラバスにて養うべき力、到達目標、成績評価の観点と方法、尺度を明記し、客観的に学修成果を測り、評価できるようにしています。

特に、授業は「アクティブラーニング」を取り入れ、学外での実習・体験の多い本学部では、ポートフォリオ（あるテーマについて調べたことを記入したノートや作業メモ、それをまとめたレポートや発表に使用した図、日々の実習記録や個別面談内容など）をもとに、多面的に、そして継続的に評価するようにしています。また、同一科目を複数の担当者で担当する場合には、ルーブリックなどの共通の評価基準を用いて、客観的に評価するようにしています。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：履修ガイド等の刊行物の配布や大阪成蹊大学ホームページ等）

<https://univ.osaka-seikei.jp/department/education/policy/>

概要

本学部は、未来を切り拓く子どもの「生きる力」を育むことのできる幅広い教養を持ち、「人間力」を備えた教育の専門家（人間的なふれあいをおして心のきずなを深め、子どもの思いを受け止めることのできる人、幅広い学問教養を備え、新しい時代の教育知識を身につけている人、多角的視点から現代社会の教育課題に対応できる豊かな感性・確かなセンスを身につけている人、教育実践を省察し研究することのできる人）を育成することを教育目的としています。

入学者に求めるもの

本学部では、入学後の教育を踏まえ、以下のような人の入学を求めています。

1. 関心・意欲
 - (1) 大阪成蹊大学の建学の精神とそれに基づく教育目的を理解し、「人間力」を備えた人に成長しようという意欲を持っている。
 - (2) 教育活動・保育活動に取り組むことを通して、子どもの健全な発達を支援したいという意欲を持っている。
2. 知識・技能
 - (3) 高等学校で履修する教科について、内容を理解し、基本的な知識を身につけている。
 - (4) 子どもの「生きる力」を育むことに生かすことのできる経験（各教科に関する学習やクラブ活動、ボランティア活動など）に基づいた知識や技能を身につけている。
3. 思考・判断・表現
 - (5) 他者の意図を適切に理解し、自分の考えをわかりやすく表現することができる。
 - (6) 教育・保育に関する問題について論理的に考えることができる。
4. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度
 - (7) 多様な人々とも協働しながら、主体的に学びを深めていこうという態度を身につけている。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：大阪成蹊大学ホームページ上の「大学紹介」内「組織図」で公表
<https://univ.osaka-seikei.jp/introduction/organization/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	6人	—					6人
経営学部	—	18人	19人	6人	4人	1人	48人
芸術学部	—	11人	12人	4人	2人	0人	29人
教育学部	—	19人	15人	7人	0人	2人	43人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		212人					212人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：大阪成蹊大学ホームページ上の「教員紹介」内で公表。 経営学部： https://univ.osaka-seikei.jp/department/management/teacher/ 芸術学部： https://univ.osaka-seikei.jp/department/art/teacher/ 教育学部： https://univ.osaka-seikei.jp/department/education/teacher/					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
<p>大阪成蹊大学では、大学全体及び各学部にてFD委員会を設け、教員の資質の維持向上に努めている。各学部のFD委員会は、学部長が委員長となり、各学科の学科長及び各学科から選出した委員により構成している。なお、その他に本学では、全学的な教学改革を推進することを目的とする教学改革FSD会議を開催しているが（平成28年度実績：全15回開催、平成29年度実績：全10回開催、平成30年度実績：全12回開催、令和元年度実績：全11回開催、令和2年度実績：全9回開催、構成員：理事長・総長、学長、副学長、学部長、学科長、コース主任等の専任教員、高等教育研究所研究員及び幹部職員等）、高大接続改革の実現、シラバスの一層の充実、全学的なアクティブラーニングの推進、適切な成績評価の実施など19のプロジェクトを立ち上げ、教学改革を推進する中で、各プロジェクトが中心となって教員の資質を高める研修を開催している。</p> <p>【令和2年度におけるFDの開催状況】 各FD研修はすべて全教員を出席対象としており、研修後の報告書の提出をもって出席確認をしている。出席がかなわなかった教員については、原則、後日学部長が研修を行っている。</p> <p>（FD研修） 【経営学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・G-Suite研修会（遠隔オンデマンド授業に向けて）（4月） ・GPAの活用方針について（7月：オンライン） ・PROGテストの分析結果を踏まえた成果・課題の共有と今後の改革方針について（7月：オンライン） ・令和2年度における教学改革の組織的な推進について（7月：オンライン） ・重要リスク項目に関する自己評価（8月：オンライン） ・授業評価アンケートの分析結果と今後の授業改善について（8月） ・専門演習の学習成果の見える化（ポートフォリオの活用）（8月） ・初年次教育（成蹊基礎演習）実施にあたっての授業担当者向研修会（スタディスキルズ2の進め方—SDGs）（9月） ・AI・データサイエンスの法的・倫理的・社会的課題（ELSI）（11月） ・充実したシラバス作成に向けて（12月） ・アクティブラーニング型授業の実践に関するワークショップ（1月） 							

- ・授業目的公衆送信保証金制度について（2月）
- ・令和2年度における共同研究の成果発表（2月）
- ・学外との連携（PBL、ゲストスピーカー、実習など）による授業の開発に向けて（3月）
- ・成績評価とルーブリックの開発に関するワークショップ（3月）

【芸術学部】

- ・学部組織研究について（6月）
- ・PROGテストの分析結果を踏まえた成果・課題の共有と今後の改革方針について（6月）
- ・インターンシップにおける指導計画と留意点（7月）
- ・専門演習・卒業研究等指導にあたっての指導計画と留意点（7月）
- ・成績評価とルーブリックの開発に関するワークショップ（8月）
- ・初年次教育（スタディスキルズ：SDGs等）実施にあたっての授業担当者向研修会（9月）
- ・PBL型授業におけるアクティブラーニング実践の工夫（9月）
- ・コロナ禍における後期「パーソナル・ブランド・マネジメントプロジェクト」の推進（9月）
- ・データサイエンスの法的・倫理的・社会的課題（ELSI）
—特にパーソナルデータを扱う場合—（11月：オンライン）
- ・充実したシラバス作成に向けて（12月）
- ・授業目的公衆送信保証金制度について（2月）
- ・初年次・キャリア教育の次年度方針（3月）
- ・授業評価アンケートの分析結果と今後の授業改善について（3月）
- ・令和2年度におけるGPAの活用方針及び指導時の留意点について（3月）
- ・令和2年度における組織・共同研究計画の発表（3月）

【教育学部】

- ・令和3年度入学者選抜における面接評価実施にあたっての担当者向研修会（7月）
- ・アクティブラーニング型授業の実践に関するワークショップ（7月）
- ・大阪成蹊大学プレゼンテーション大会「大阪成蹊カップ」（8月）
- ・インターンシップにおける指導計画と留意点（8月）
- ・成績評価とルーブリックの開発に関するワークショップ（8月）
- ・初年次教育（成蹊基礎演習）実施にあたっての授業担当者向研修会（9月）
- ・初年次教育とキャリア教育（10月）
- ・語学・グローバル教育の現実—世界に通用する語学力とグローバルマインドの涵養（10月）
- ・データサイエンスの法的・倫理的・社会的課題（ELSI）
—特にパーソナルデータを扱う場合—（10月：オンライン）
- ・専門演習・卒業研究等指導にあたっての指導計画と留意点（12月）
- ・シラバス作成に関するワークショップ（12月）
- ・授業評価アンケートの分析結果と今後の授業改善について（1月）
- ・学外との連携（PBL、ゲストスピーカー、実習など）による授業の開発に向けて（2月）
- ・改正著作権法第35条運用指針について（2月）
- ・パーソナル・ブランド・マネジメントプロジェクトのこれまでの成果と今年度の指導方針について（3月）

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
経営学部	300人	335人	111.7%	1,088人	1,177人	97.4%	4人	5人
芸術学部	190人	227人	119.5%	749人	826人	108.4%	1人	1人
教育学部	200人	210人	105.0%	770人	802人	99.0%	5人	1人
合計	690人	772人	111.9%	2,607人	2,805人	100.9%	10人	7人
(備考) 収容定員 (c) ならびに在学生数 (d) に編入学定員及び編入学生数を含めています。								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
経営学部	185人 (100%)	2人 (1.1%)	168人 (90.8%)	15人 (8.1%)
教育学部	117人 (100%)	1人 (0.9%)	115人 (98.3%)	1人 (0.9%)
芸術学部	154人 (100%)	3人 (1.9%)	131人 (85.1%)	20人 (13.0%)
合計	456人 (100%)	6人 (1.3%)	414人 (90.8%)	36人 (7.9%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
<p><経営学部></p> <ul style="list-style-type: none"> ・製造業：三協立山、NTN、敷島製パン、ロック・フィールド など ・金融業：関西みらい銀行、鹿児島銀行、大阪シティ信用金庫、北おおさか信用金庫 など ・商社・卸売業：コマツリフト、リコージャパン、日本ハム西販売 など ・小売業：エディオン、ジーンズ、はるやま商事 など ・情報通信業：エイチーム、ネクシィーズ、コネクシオ など ・教育・学習支援業：公立小学校、公立高等学校、私立幼稚園 など ・宿泊業・飲食サービス業：ホテル日航プリンセス京都、リゾートトラスト など ・スポーツ関連：セントラルスポーツ、ゼビオ、ニシ・スポーツ など <p><教育学部></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育、学習支援業：大阪府（小学校教員）、大阪市（小学校教員）、豊能地区（小学校教員）、神戸市（小学校教員）、堺（小学校教員）、京都府（小学校教員）、兵庫県（小学校教員）、愛知県（小学校教員）、横浜市（小学校教員）、大阪市（保育士）、奈良県（保育士）、豊中市（幼稚園） <p><芸術学部></p> <ul style="list-style-type: none"> ・製造業：カプコン、パナソニック、カミオジャパン、佐川印刷、永昌堂印刷、平和マネキン、東洋シャッター など ・卸売業、小売業：ユナイテッドアローズ、パル、ライトオン、ヴィレッジヴァンガードコーポレーション、アクタス、アニエスベージュジャパン など ・情報通信業：トランスコスモス、ユナイテッド、エイチーム、ライデンフィルム、プロダクションリード など ・建築・建築デザイン業：築紫、ユアサデザインルーム、ケセラセラ、サンワカンパニー など <p>(備考)</p>				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>中央教育審議会の答申や政策的な提言を含めて、本学のディプロマ・ポリシーとの関連性も踏まえつつ、学生にとって分かりやすいシラバスの作成に努め、授業の質や教育成果について、常に検証を行っている。</p> <p>平成 29(2017)年度には、シラバス入力の新フォーマットの構築、シラバス作成の手引きの策定、シラバスチェック体制の構築、シラバス作成及びチェックにあたっての研修会の開催等を行った。平成 30(2018)年度には、シラバスの記載項目に実務経験の有無の記載欄の新設や、授業の事前・事後の学修課題の記載の具体化等を図った。シラバスにおける記載事項は、全学的な教学改革の取組を反映したものであり、例えば、各授業の養うべき力と到達目標におけるディプロマ・ポリシーに掲げる各要素との対応の明記、アクティブラーニングを促す方法の明記、成績評価の方法・割合・基準等の明記、学外連携学修の有無と連携先の明記、授業外の学修課題や目安となる学修時間等の明記などである。令和元（2019）年度には、シラバス作成にあたっての留意点や作成例を充実させ、定期試験の扱いに関する注意を新たに徹底した。令和 2（2020）年度には、90 分授業から 100 分授業へと移行し、すべてのシラバスに対し、授業計画を改めて見直した。また、チェック機能を更に強化するため、シラバス作成の手引き最終ページにセルフチェックリストを追加した。</p> <p>学生と担当教員の間で、当該科目における学修イメージを事前に共有することの出来る分かりやすいシラバスを作成できている。記載項目の充実や各教員の記載方法の工夫を図るとともに、科目区分ごとのシラバスチェック体制を充実して、複数の教員の視点を踏まえたシラバス作成によって、シラバスの質の向上を図っている。</p> <p><シラバス記載項目></p> <p>① 授業概要 ②実務経験のある教員による授業科目 ③養うべき力と到達目標 ④学外連携学修 ⑤授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）⑥課題や取組に対する評価・振り返り ⑦成績評価（評価方法・割合・基準等） ⑧使用教科書 ⑨参考文献等 ⑩履修上の注意・備考・メッセージ ⑪オフィスアワー・授業外での質問の方法 ⑫授業計画（タイトル・授業内容・授業外学修課題・目安の時間）</p>
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定にあたっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>各教員は担当授業の学修到達度を査定する際には、シラバスに記載の「成績評価方法」「評価割合」「評価の基準等」に基づいて評価を行う。また特に、レポート、作品・ポートフォリオ、プレゼンテーション、卒業論文などによる質的評価を行う科目では、適宜ルーブリックを開発・活用している。さらに、成績評価ガイドラインを定め、成績評価にあたっての考え方や、各評語に関する共通理解を図り、公正で客観的な成績評価に努めている。</p> <p>本学では、学生の学習成果の獲得状況を客観的に数値化して比較するために GPA 制度を導入し、学生の学修状況の把握・分析、学修・履修指導への活用、成績優秀者への表彰</p>

等に活用している。学生に対しては、履修オリエンテーションにおいて、GPA 制度の目的や GPA の算出方法、活用方法等を周知している。また、期末毎に配布される成績表に単位取得数とともに GPA を表記して、フィードバックしている。

成績の分布状況の把握にあたっては、半期ごとに、全授業の成績評価分布のデータを分析して、成績評価の現状と課題を検証している。検証結果をもとに、成績評価に著しい偏りの見られる教員への改善指導や、ルーブリックの活用の推進を図り、公正で客観的な成績評価の実施に努めている。

成績の評語、点数、及びグレードポイント (GP) は、次表のとおり定めている。

区分	成績の評語	点数	GP	評価基準
合格	秀	100 点～90 点	4	基準を大きく超えて優秀である
	優	89 点～80 点	3	基準を超えて優秀である
	良	79 点～70 点	2	望ましい基準に達している
	可	69 点～60 点	1	単位を認める最低限の基準には達している
不合格	不可	59 点以下	0	基準を大きく下回る

GPA は、次の式により計算し、小数点以下第二位の値を四捨五入する。

$$\text{GPA} = \frac{\text{(当該科目の単位数} \times \text{該当学期の履修科目の GP) の総和}}{\text{当該学期の履修科目の総単位数}}$$

大学全体の卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー) を下記のとおり定め、本学の建学の精神「桃李不言下自成蹊」を体現する「人間力」のある人材として、卒業の認定に際して「何ができるようになっているか」を明確に示している。また、大学全体の卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー) に掲げる育成する人材像と構成要件を揃えながら、学部・学科別の卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー) を策定している。

各授業のシラバスで示す「養うべき力と到達目標」は、卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー) に掲げる各要素と対応するよう設定し、到達目標の達成度を、同じくシラバスに明示する成績評価方法、割合、基準等に基づいて、適切に評価して単位を認定している。卒業要件となる単位数は、学則第 45 条において、科目区分ごとに定め、合計 124 単位以上の取得を要件としている。4 年生後期の成績評価終了後、速やかに卒業判定教授会を開催し、各学生の単位の修得状況が卒業要件を満たしているかにつき確認し、卒業判定を行っている。

学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)

概要

本学では卒業要件単位の取得を通して、以下に示す「確かな専門性」、「社会で実践する力」、「協働できる素養」、「忠恕の心」を身につけた学生に対し、社会で活躍できる「人間力」を備えたものとみなし、学士の学位を授与します。学士には、幅広い分野・領域で高い専門性を発揮するための確かな知識や技能、実践力が求められます。また、知識や技能だけでなく、社会人として活躍するための、自ら課題を発見し解決していこうとする姿勢や、様々な人と協力して物事に取り組むことのできる素養を必要とします。

確かな専門性

1. 確かな専門性を磨くための幅広い教養やスキルを身につけている。
2. 専門に関わる確かな知識・技能、職業理解を身につけている。

3. 知識・技能を実践の中で応用することができる。

社会で実践する力

4. 論理的に考え、課題を明らかにすることができる。（課題発見）
 5. 豊かな発想力によって、未知の課題にも創造的に取り組むことができる。（企画・立案）
 6. 主体性を持ち、積極的に行動することができる。（行動・実践）
 7. 困難な課題にも挑み、最後までやりとげることができる。（完遂）

協働できる素養

8. 他者の意見をよく聴き、自己の意図を正確に伝えることができる。
 9. 集団やチームの中で固有の役割を果たすことができる。

忠恕の心

10. 常に誠をつくし、ひとの立場に立って考え行動することができる。

学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
経営学部	経営学科	124 単位	有・無	22 単位
	スポーツ マネジメント学科	124 単位	有・無	22 単位
	国際観光 ビジネス学科	124 単位	有・無	22 単位
芸術学部	造形芸術学科	124 単位	有・無	22 単位
教育学部	教育学科	124 単位	有・無	22 単位

GPAの活用状況 (任意記載事項)	<p>本学では GPA 制度をより実質化するため、次の 8 項目において GPA を活用しています。</p> <p>(1) 成績優秀者の表彰 ①卒業時に、通算 GPA 上位者で、且つ他の学生の模範となる学修態度を有している者から 1 名ずつに学長賞を授与します。 ②学年ごとに、当該年度の GPA 上位者で、且つ他の学生の模範となる学修態度を有している者から各学部で 2 名ずつに優秀賞、優良賞を授与します。</p> <p>(2) 履修単位数の上限を超えた履修 <経営学部・芸術学部> 履修単位数の上限を超えた履修を認める際の要件を、直前の学期に 20 単位以上修得し、直前学期の GPA が 3.0 以上の場合に適用します。 <教育学部> 履修単位数の上限を超えた履修を認める際の要件を、直前の学期に 20 単位以上修得し、直前学期の GPA が 3.0 以上の場合、または前年度 1 年間で 40 単位以上修得し、前年度 1 年間の GPA が 3.0 以上の場合に適用します。</p> <p>(3) 成績不振者への学修指導 通算 GPA が下位 20%の者には、アドバイザー教員等が学修状況に関する面談を実施します。</p> <p>(4) ゼミ配属 一部のゼミに希望が集中した場合、選抜要件の一つとして GPA を参照する場合があります。</p> <p>(5) インターンシップ、実習等に参加する際の水準 企業インターンシップや学外で行う実習等に参加する場合、通算 GPA が上位 70%であることを履修の目安に設定します。なお、教育実習や保育実習、その他資格の取得要件となる科目には GPA の目安を設けません。</p> <p>(6) 教員採用試験等の学内推薦 学内推薦者を選考する際に、通算 GPA が上位 30%以内であることをその目安として設定します。</p> <p>(7) 奨学金の推薦 各奨学金の要綱に定めがある場合にはそれに準じ、定めのない場合には通算 GPA が上</p>
----------------------	--

	位 50%以内であることをその目安に設定します。 (8) 休学等の指導 通算 GPA が 1.0 未満である場合、学修状況、出席状況、その他の生活状況を総合的に勘案し、就学意欲の著しい低下等の理由により学修の継続が困難であると判断される場合には、休学等を指導することがあります。
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)	公表方法：大阪成蹊大学ホームページ「情報公開」内、各種データにて公表。 https://univ.osaka-seikei.jp/disclosure/

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：大阪成蹊大学ホームページ「大学紹介」「キャンパスライフ・学生支援」内にて公表。また、冊子「キャンパスガイドブック」の配布等にて公表。 https://univ.osaka-seikei.jp/introduction/campus/ https://univ.osaka-seikei.jp/life/facility/

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
経営学部 (令和3年度入学生)	経営学科	795,000円	250,000円	197,000円	教育充実費
	スポーツマネジメント学科	795,000円	250,000円	197,000円	教育充実費
	国際観光ビジネス学科	963,000円	250,000円	207,000円	教育充実費、実習費
経営学部 (令和2年度入学生)	経営学科	795,000円	—	197,000円	教育充実費
	スポーツマネジメント学科	795,000円	—	197,000円	教育充実費
	国際観光ビジネス学科	963,000円	—	197,000円	教育充実費
経営学部 (令和元年度入学生)	経営学科	795,000円	—	197,000円	教育充実費
	スポーツマネジメント学科	795,000円	—	197,000円	教育充実費
	国際観光ビジネス学科	963,000円	—	197,000円	教育充実費
経営学部 (平成30年度入学生)	経営学科	775,000円	—	197,000円	教育充実費
	スポーツマネジメント学科	775,000円	—	197,000円	教育充実費
	国際観光ビジネス学科	963,000円	—	197,000円	教育充実費
芸術学部 (令和3年度入学生)	造形芸術学科	1,272,000円	200,000円	197,000円	教育充実費
芸術学部 (令和2年度入学生)	造形芸術学科	1,272,000円	—	197,000円	教育充実費
芸術学部 (令和元年度入学生)	造形芸術学科	1,272,000円	—	197,000円	教育充実費
芸術学部 (平成30年度入学生)	造形芸術学科	1,172,000円	—	197,000円	教育充実費

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
教育学部 (令和3年度入学生)	教育学科 初等教育専攻 初等教育コース・ 幼児教育コース	870,000円	250,000円	310,000円	教育充実費
	教育学科 中等教育専攻 保健体育教育コース	870,000円	250,000円	320,000円	教育充実費、実習費
教育学部 (令和2年度入学生)	教育学科 初等教育専攻 幼児教育コース	870,000円	—	337,000円	教育充実費、実習費
	教育学科 中等教育専攻 英語教育コース	870,000円	—	335,000円	教育充実費、実習費
	教育学科 初等教育専攻 初等教育コース 中等教育専攻 保健体育教育コース	870,000円	—	325,000円	教育充実費、実習費
教育学部 (令和元年度入学生)	教育学科 初等教育専攻 幼児教育コース	870,000円	—	366,000円	教育充実費、実習費
	教育学科 初等教育専攻 幼児教育コース 中等教育専攻 英語教育コース・ 保健体育教育コース	870,000円	—	322,000円	教育充実費、実習費
教育学部 (平成30年度入学生)	教育学科 初等教育専攻 幼児教育コース	850,000円	—	332,000円	教育充実費、実習費
	教育学科 初等教育専攻 初等教育コース 中等教育専攻 英語教育コース・ 保健体育教育コース	850,000円	—	310,000円	教育充実費

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要)
1. 学生支援センター「なんでも相談窓口」の設置 多様な問題を抱え、修学に不安を感じている学生が相談しやすいよう、「なんでも相談窓口」を設けている。
2. 学生支援委員会の設置 大学における退学者縮減を主題として、様々な具体策を講じている。
3. アドバイザー制度に基づく教職員連携による学生支援 全ての学生にアドバイザー教員と学生支援課職員を配し、休学者も含めて学生一人ひとりの状況把握に努めている。教職員連携により、学生個人を見守りながら組織的な学生支

<p>援を実施している。</p> <p>4. 学生カルテシステムおよび出席管理システム導入による情報の共有化 学生カルテシステムを活用し、毎週、全学生の授業出席状況をアドバイザー教員へ通知する等、学生情報の速やかな共有を図っている。</p> <p>5. 保護者（保証人）との連携による取組 欠席調査結果の変化を見ながら、多欠席傾向の学生について本人や保護者（保証人）へ連絡し、出席奨励指導を実施。</p>
<p>b. 進路選択に係る支援に関する取組</p> <p>（概要） 就職部の具体的な就職支援業務は次のとおり。</p> <p>1. 「キャリアカウンセリング（進路・就職相談）」 各学部担当の就職部スタッフが進路相談、履歴書添削、面接練習など進路・就職に関するサポートを実施しており、企業や各事業所との信頼関係や卒業生の実績を活かした支援体制を構築している。また、プロのキャリアカウンセラーを配置し、就職活動全般をサポートしている。</p> <p>2. 「就活サポートプログラム」 就職活動に役立つ様々なプログラムを実施している。就職ガイダンス、応募書類作成、面接対策、グループディスカッション対策など多彩なプログラムを用意し、企業・幼稚園・保育園等の採用試験突破・内定獲得を後押ししている。</p> <p>3. 「就職 WEB システム」 大阪成蹊大学に届いた求人票を、学内はもとより自宅のパソコンからも確認できる環境を整備している。</p> <p>4. 「キャリアデザインルーム」 キャリアデザインルームは、本館 1 階・就職部カウンターに隣接しており、企業・保育園および幼稚園・公務員・就職参考書籍の閲覧ができる。また、求人情報をインターネット検索できるようにパソコンも配置している。</p> <p>5. 「大阪成蹊就職ガイドブック」 就職活動を乗り切るための手引書。就職活動の準備が本格化するタイミングに合わせて、1冊ずつ配布している。</p> <p>6. 「学内企業説明会」 学内企業説明会は、企業の人事・採用担当者との直接対話を通して、その企業の事業内容や職務内容を理解することを目的に、年間を通して合同および個別形式で開催している。会社説明を聞くだけでなく、学生から積極的に質問ができるように少人数制セミナー形式で実施している。毎年、様々な業界から大阪成蹊大学生を採用したいと考えている優良企業を多数招致し、内定獲得に結びつけている。</p> <p>7. 「Online Interview Booth」 新型コロナウイルス感染症対策として、リモートによる個別就職相談会やオンライン面接練習等を実施している。</p>
<p>c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組</p> <p>（概要）</p> <p>1. 学生支援センター「なんでも相談窓口」の設置 入学オリエンテーション時、学生支援体制および「なんでも相談窓口」としての機能について具体的に説明している。学生支援課は、日常的に学生本人や保護者（保証人）との面談や電話相談を行い、個々の事情に応じて細やかな対応を実施している。</p> <p>2. 学生相談（カウンセリング）室の設置 誰かに話を聞いてほしいときや困りごとの相談をカウンセラー（臨床心理士）がおこなっている。</p> <p>3. 障がい学生支援室の設置 大学生活や修学に何らかの配慮や支援が必要な場合、申し出に応じて問題点をともに考</p>

- え、解決策を提案している。
4. 教職員（アドバイザー、学生本部）の連携による支援
学生の心身に関する異変や相談内容の記録については、学園の定める個人情報保護規則に照らして情報を共有し、カウンセラーへも報告し、速やかに対応することで事態の悪化を防止している。
 5. 保護者（保証人）との相互理解による支援
保護者（保証人）が安心して学生を就学させることができるよう、懸念があれば速やかに報告している。
 6. 保健センターの設置
保健センターでは、学生生活を健康で安全に過ごすことができるよう、健康管理や健康増進について支援している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

- 公表方法：大学ホームページ上の下記 URL で公表。
1. 大学の教育研究上の目的及び第百六十五条の二第一項の規定により定める方針（卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針）に関すること
<https://univ.osaka-seikei.jp/introduction/policy/>
 2. 教育研究上の基本組織に関すること
<https://univ.osaka-seikei.jp/introduction/organization/>
 3. 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること
<https://univ.osaka-seikei.jp/introduction/teacher/>
 4. 入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること
<https://univ.osaka-seikei.jp/disclosure/>
 5. 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること
<https://univ.osaka-seikei.jp/department/syllabus/>
 6. 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること
大学全体：<https://univ.osaka-seikei.jp/introduction/policy/>
経営学部：<https://univ.osaka-seikei.jp/department/management/policy/>
芸術学部：<https://univ.osaka-seikei.jp/department/art/policy/>
教育学部：<https://univ.osaka-seikei.jp/department/education/policy/>
 7. 校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること
<https://univ.osaka-seikei.jp/introduction/campus/>
<https://univ.osaka-seikei.jp/life/facility/>
※その他、冊子「キャンパスガイドブック」の配布等にて公表。
 8. 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること
<https://univ.osaka-seikei.jp/disclosure/>
※情報公開ページの「学則」にて公表。

9. 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること
<https://univ.osaka-seikei.jp/life/consultation/>
また、大学案内、冊子「キャンパスガイドブック」の配付等にて公表。